

# 徳法寺

## 対等

杉谷 伊吹

皆様こんにちは、暑中お見舞い申し上げます。

今回は私の友人にまつわる、人と人との関係についての考察です。私には何人か付き合ひの長い友達がいまして、互いの欠点も色々見てきたせいか、飾らずに接することが出来ます。私はこのように自分をそのまま出せる間柄を、「対等」であると思っています。この様に考えるきっかけとなった話があります。私はかつて友達と出かける際、あえて互いに面識のない友人と一緒に誘うことがありました。例えば、高校時代の友人と大学時代の友人を混ぜて遊ぶということです。ある時、私の古くからの友達Aが驚くようなことを言いました。「今日会ったBは完璧すぎてちょっと付き合っていない。どこか見下せる部分がないっていうのは精神的に無理」。

私がこの言葉に衝撃を受けたのには二つの理由があります。一つ目は、私にはBに「完璧」というイメージが全くなかった為です。彼には虚勢を

張って嘘をつくという虚言癖があったので、むしろ少し周りから軽んじられていた人物だったので（本人様すいません）。このことは、Aに対してBが自分を取り繕うのに成功したという事ですが、その結果、BはAから突き放されてしまうことになつてしまったというのは皮肉なことですね。相手の欠点が見えないことで「対等」な関係を築き難くなることもあることに気付かされました。確かに、どこか抜けていて隙の多い人物の方が友達が多いように思えます。

もう一つ驚いたのはAの表現力と考え方です。普通に考えれば「完璧」というのは誉め言葉で、「見下す」というのは相手を貶める言葉です。ですが、自らの感性に素直で、世間に対してちよつとひねくれている彼の場合は、その限りでは無かつたようです。そしてまた、その考え方は私にもすぐく共感できるものでした。今まで言語化できていなかった自らの感覚を、ズバリ言い当てられたように感じたのです。この「見下す」という表現は、決して上品なものではないですが、相手は自分より何もかも勝っていると感じている場面の、何とも言えない居心地の悪さに対して、自らの心の醜い内面（劣等感など）を的確に捉えているように思えたのです。

そもそも人間の心情には他人を「見下す」ことで安心したいというような、汚い部分が多々あるはずなのです。ですが、普段はそのような汚い部分から無意識に目を逸らしてしまうのではないのでしょうか。高い理想や理念と共に、そのような汚

い心情をも併せ持っているのが人間の現実だと、このとき私は強く自覚したのです。

付き合ひの長い友人Aと私は、お互いの欠点を数えきれないほど知っています。迷惑もどれ程かけたか分からない仲ですが、それでも「対等」でいられます。これは、尊重し合える「平等」というよりも、お互いの醜悪さも含めて互いに受け入れ合っているという安心によつてもたらされる居心地の良い「対等」さなのです。飾らないで居られる関係というのは、自分にとつても相手にとつても楽です。ですから、なるべく常日頃から自然体で過ごし、隙だらけの生き方が出来ればな〜と思う今日この頃です。



# 飛び石

杉谷 淨

下の写真は、京都の鴨川デルタに架かっている亀の形をした飛び石の橋です。私が京都に住んでいる頃にはまだなかったのですが、聞いてはいたものに行ったことがなかったのですが、今年、京都国立博物館に親鸞展を観に行ったついでに寄ることができました。平日でしたが、子供連れの家族や、犬と散歩している人たちが、何組も楽しそうにこの橋を渡っていました。石と石の間隔は、小学校低学年位なら難なく飛び越えられるほどですが、犬にはなかなか難しいようで、飼い主にせかされて、ようやく渡ることでできていました。私も続いて渡り始めたのですが、途中で春に痛めた右ひざに力が入らなくなり、思った以上にスリルを味わうはめになりました。何とか川に落ちることなく渡ることができたものの、改めて老齢化した身の程を知らされました。

ここ数年、視力や記憶力の低下が感じられ、血圧測定も日課となり、毎日飲む薬の数も増えるなど、明らかに老化が進んでいることはわかっているつもりではいるのです。ただ、大きなけがや病気をしない限り、日々の変化は目に見える程大きなものではありません。そこでついつい、以前は当たり前に行っていたことを、今でもできるものだと勘違いしてしまつて失敗を繰り返してしまうのです。ただ、この老化現象をそれほど悲観的には思っていない自分に

驚かされてもいます。

もちろん、今までできなかったことができなくなる不自由さは感じます。新型コロナウイルスでスポーツジムが閉鎖されていた時、過度なジョギングで座骨神経痛になって以来、長距離を走ることができなくなりしました。ひざを痛めてからは、短い距離でも走る事を躊躇してしまいます。テレビ番組内の文字が読み取れないので、妻に教えてもらっています。しかしどれも年齢を考えれば当たり前前の事ですし、まだまだ自分でできることはたくさんあります。また、できなくなつて気づかされることも少なくありません。それどころか、どこかで老化を楽しんでいる自分がいるようにも感じます。少なくとも、若い頃に帰りたいとは思っていません。思い返すだけでも、恥ずかしい限りですが、それだけ少しは成長したという証拠なのでしょう。

私が、自分の老化をこのように考えることができるのは、人生の先生方から教えていただいた言葉のおかげかもしれません。親鸞聖人の書かれた『教行信証』の中に「真理の一言は悪業を転じて善業と成す」という言葉があります。「真理の言葉」とは善い行いをもたらすものではなく、悪業を善業に変えるものであるということです。私にとつての、そのような「真理の言葉」の一つが、詩人まど・みちおさんが百歳を迎えられた時に出された詩集『逃げの手』にある次の言葉です。

私の目の上にはいぼがあります。

そのせいで、二重に物が見えたり、かすんで見え

たりします。

このいぼのおかげで、私の世界の見え方にはバリエーションが増えていく。

楽しくて、うれしくてしょうがないのです。

みちおさんは「ほかの人にとつての常識が、私にとつては、はつとするような発見なのです。」ともおっしゃっています。自分にとつて都合の良いことも悪い事も、全部を楽しんでいたみちおさんは、百五歳で亡くなるまで、病や老い、そして「死んでいくところもふるさと」と死さえも楽しんでいらつしやいました。私も痛めた膝のおかげで、久しぶりに、ハラハラドキドキする体験を味わうことができました。みちおさんの境地には、遥かに及びませんが、私も最後まで人生を楽しんでいきたいと思っています。



## 本の紹介

杉谷登紀子

# 6カ国転校生 ナージャの発見

著者 キリーロバ・ナージャ

集英社インターナショナル 2022年

ナージャは、ロシアで生まれますが、数学者の父と物理学者の母の仕事の転勤により、小中学校時代には、ロシア→日本→イギリス→フランス→日本→アメリカ→日本→カナダ→日本の学校に通いました。この本の扉裏には、「正解はない、違いがあるだけ」「『ふつう』がひっくり返り、世界の見え方が変わる本」と書かれています。学校に通う子供たちや先生方に、ぜひ、読んでほしい一冊です。

第一章では、6カ国の学校や学びのスタイルを比べてみます。たとえば、筆記用具。ロシアの学校ではペンを使うので「よく考えて」から書くようになります。イギリスは鉛筆ですから、たくさん書くよ



うになりま  
す。机の並び  
方はロシアで  
は、男女ペア  
になって二人  
で座ります  
が、イギリス  
では、5〜6  
人でテーブル

を囲み、グループで分らないところを教え合います。フランスでは、机を円の形にして、先生がその中に入り、先生の問いに生徒が議論を戦わせます。体育の時間、日本やロシアはならんで整列しますが、フランスやアメリカでは、決まった体操服もなく、整列もしないで体を動かす楽しさを重視します。ランチタイムにはロシアや日本ではみんな同じ場所と同じものを食べますが、フランスでは多くの生徒は家に帰って昼食をとりますし、イギリスやアメリカでは個人の宗教や主義や思想に柔軟に対応するために給食は選択制となっています。テストでも、カナダの中学校では計算機を持ち込みができませんし、アメリカでは何度もテストをやり直させて褒めて伸ばすのに対して、フランスでは満点は「人生で何度かしか起きないようなことだ」というので満点はなかなか取れないようになっています。ナージャは、各国で水泳教室にも通いましたが、ロシアでは泳ぐスピード、日本は泳ぎの形、アメリカでは海で流されても長く浮くための持久力を求められたそうです。

スピード、カタチ、持続性。確かにどれも重要だ。でもどれに重点を置くか、その理由はどこにあるか。水泳を通して子どもたちに何を学んでほしいのか。そもそも何のために習わせるのか、何のために習いたいか。そのことを考え始めたら自分にとってベストなやり方が自然と見えてくるのかもしれない。これは、もしかしたら、あらゆるスポーツや勉強に共通して言えることかもしれないと思うと、

かなり興味深い。(78頁)

ナージャは、現在、日本の広告代理店で働いています。子供の頃は、無口で人見知りだったそうです。大人になったナージャが、自分の経験を通して得たことを、「5つの発見」という言葉を使って述べているのが、第2章です。

- ① 子供の頃は周りに合わせようとするが、違って  
いることが、個性の原料となる。
- ② 「苦手」は克服しない。自分ができる方法を探  
す。(英語が苦手なナージャは、エッセイコン  
クールで、詩を発表して優勝したそうです。)
- ③ 「人見知り」は短所ではなくて長所。人や状況  
を深く観察しているから。
- ④ どんな場所にも必ずいいところがある。イギリ  
スのグループ学習ならば、苦手科目があっても  
大丈夫。フランスでは、アウトサイダーだと感  
じることがあまりない。
- ⑤ 「すべてに理由、そして面白さがある」など、  
心に残っている各国の先生たちの言葉を紹介。

ナージャは、本の「おわりに」でこう締めくくつ  
ています。

子どもが変われば、ベストは変わる。  
時代が変われば、ベストは変わる。  
目的が変われば、ベストは変わる。  
正解はない。違いがあるだけ。  
あなたにとってのベストはなんですか？

# 徳法寺からのご案内

## 徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺住職 杉谷淨

## 心の相談室

毎月第四土曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町商店街にある「いちよう館」二階にて真宗大谷派の僧侶による「心の相談室」を開いております。個室で相談をお受けします。仏事はもちろん、家庭や職場、学校など、どのようなお話もお聞きします。相談は無料です。予約もありません。相談内容は一切外に漏れることはありませんので、お気軽にお訪ねください。

## サンガ茶話会

毎月第一木曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町にある東別院敷地内「真宗会館」一階囲炉裏の間にて「心の相談室」スタッフによる「サンガ茶話会」を開いております。座談形式となっております。僧侶やその場に集まった方々とお話しませんか。いろいろな方に聞いてほしい話、聞いてみたい話がある方はお気軽に参加してください。他の参加者の話を聞いていただけでも構いません。参加は無料です。予約も必要ありません。出入りも自由ですので、途中参加、途中退室でも大丈夫です。お茶とお菓子を用意してお待ちしておりますので、お気軽にご参加ください。

## 徳法寺秋彼岸展

### 水上悦子木版画展


九月十六日(土)から二十六日(火)まで

徳法寺では二回目となる水上悦子氏の木版画展を行います。今年は金子みずぶ生誕から一二〇年となりますが、その言葉は今も心に響いてきます。みずぶの詩と水上さんの素敵な木版画をお楽しみください。

### 秋彼岸法要及び永代経法要

九月二十三日(土・祝)午後二時から午後四時まで  
読経の後、当寺住職の法話となります。

9月16日(土)~26日(火)



水上悦子木版画展 入場無料

秋彼岸中日及び永代経法要  
9月23日(土・祝)午後2時より  
動行『仏説観無量寿經』法話 当寺住職 杉谷淨

徳法寺 〒921-8031 金沢市野町2-32-4 TEL. 076-241-5219

表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

TEL 076(241)5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。